

**平成26年度**

**工業標準化事業表彰**

**平成26年10月14日**

**経 済 産 業 省**



# 目 次

1. 工業標準化事業表彰 内閣総理大臣表彰	(個人 1名) . . . . .	1
2. 工業標準化事業表彰 経済産業大臣表彰 (個人)	(個人 20名) . . . . .	2
3. 工業標準化事業表彰 経済産業大臣表彰 (組織)	(組織 3組織) . . . . .	9
4. 国際標準化貢献者表彰 産業技術環境局長表彰	(個人 17名) . . . . .	10
5. 国際標準化奨励者表彰 産業技術環境局長表彰	(個人 6名) . . . . .	16
6. 工業標準化功労者表彰 産業技術環境局長表彰	(個人 2名) . . . . .	18



## 平成26年度工業標準化事業表彰 内閣総理大臣表彰受賞者

藤澤 浩道（ふじさわ ひろみち）  
株式会社日立製作所 研究開発本部 技師長（67歳）

### 【略 歴】

1974年 株式会社日立製作所入社、中央研究所配属  
1983年 同社 同研究所主任研究員  
1992年 同社 ソフトウェア開発本部副技師長  
1993年 同社 同研究所主管研究員  
2000年 同社 同研究所主管研究員  
2003年 同社 研究開発本部技師長  
2006年～08年 IEC/TC105(燃料電池)議長  
2009年～14年 IEC 適合性評価評議会(CAB)議長兼副会長

### 【主な功績】

1. IEC(国際電気標準会議)において、標準規格作成と並ぶ柱の一つである適合性評価評議会議長(CAB:兼 IEC 副会長)という要職にアジアから初めて着任。
2. 国際的なバランス感覚や IEC 活動に対する積極的な取組は、内外の IEC 関係者から高い評価を受けているが、本年末で IEC 規約による 2 期上限を迎えるため、満期退任予定。
3. これまで、CAB 議長として CAB 会合に対応している他、傘下の認証制度にも積極的に対応。とりわけ、新たな適合性評価システム、IEC/RE システム(IEC Conformity Assessment System for Renewable Energy)を関係者の協力を得て設立した功績は多大。
4. また、国内においても、適合性評価関連の各種セミナーなどに精力的に対応しており、適合性評価制度に関する国内関係者の認知度を高めた点でもその功績は多大。

### 【受賞等】

2008年 工業標準化事業表彰 経済産業大臣賞  
2008年 IEC 活動推進会議 議長特別賞

[敬称略]

平成26年度工業標準化事業表彰経済産業大臣表彰受賞者

個人

NO	氏名	所属	主な功績
1	あべ たかし 阿部 隆	一般社団法人日本鉄鋼連盟 標準化センター事務局 主査	日本鉄鋼連盟鋼材規格検討会の基本・構造用鋼分科会及び圧力容器用鋼板分科会の主査として、51件の規格原案を自ら作成し規格作成を主導。また、鉄鋼の用語や受渡条件等、鉄鋼分野で最も普遍的かつ重要なJISの国際整合化を推進した他、ISO/TC102（鉄鉱石）/SC1（サンプリング）国際幹事、TC17（鉄鋼）のコンビーナやエキスパートとしてJISの規定の国際規格への反映を強力に推進。日本工業標準調査会（JISマーク表示制度専門委員会委員他）、ASTM（米国材料試験学会）など、多方面の標準化活動に多大な貢献。
2	いちはら ゆたか 市原 裕	株式会社ニコニコテクノロジーセンター 市原研究室 室長	ISO/TC172（光学及びフォトンクス）/SC3（光学材料及び構成物）国際議長・国内対応委員長及び日本工業標準調査会臨時委員等を務め、光学フォトンクス分野の国際標準化を牽引。機械部品の寸法公差に関する非合理的な欧米規格を国内準拠公差へ修正することに成功。ドイツの特殊な透過率及び反射率の測定法標準化に対し、日本の測定法が規格外とならないよう、別のSCにおいて日本の測定法を標準化することに尽力。また、国内対応委員会の活性化やSC3国際幹事・国際議長引受けに多大な貢献。
3	おがた としお 緒形 俊夫	独立行政法人物質・材料研究機構 環境・エネルギー材料部門信頼性評価ユニット(併任) 中核機能部門材料情報ステーション 特命研究員	ISO/TC164（金属の機械試験）や同TC/CAG（議長諮問グループ）の国際議長を務める他、同TC傘下のSCやWG等にプロジェクトリーダーやコンビーナ、エキスパートとして参画し国際標準化の議論を強力に先導。日本工業標準調査会（非鉄金属技術専門委員会）委員、日本鉄鋼連盟標準化センター鋼材規格三者委員会副委員長、石油代替電源用新素材試験・評価方法標準化調査研究国際RRT分科会委員、VAMAS（ベルサイユサミットに基づく新材料と標準に関する国際共同研究）日本代表委員として規格作成に参画するなど、標準化活動に多大な貢献。

NO	氏名	所属	主な功績
4	きくち さとる 菊池 哲	一般社団法人軽金属製品協会 元専務理事	16年間休止状態となっていたISO/TC79（軽金属及び同合金）/SC2（アルミニウムの陽極酸化皮膜、有機塗料膜及び複合皮膜）の国際議長を引き受けるとともに、国際幹事も日本が引き受けるなど、活動再開に多大な貢献をするとともに、国際議長として、2規格の制定、19規格の改正を主導するなど精力的に規格開発を行った。また、自身の海外ネットワークを活かし、SC2に海外の業界団体をリエゾンとして参画させた。国内においては、主にアルミニウムの表面処理技術に関し、JIS原案作成委員として計27規格の制定・改正に尽力。
5	ささじま ひさし 笹嶋 久	アズビル株式会社 技術標準部 シニアアドバイザー	IEC/TC65（工業用プロセス制御）/SC65B（計測及び制御機器）/WG7（デバイス）、同TC/SC65C（工業用ネットワーク）及びSC65E（企業システムにおける装置及び統合）と複数のSCの国際専門家として長年参画し、プログラマブル・ロジック・コントローラの国際規格等の策定に貢献。また、同TCの総会においては日本代表を長年務め、日本開催時には過去最大の参加者を得るなど、欧米の影響が強い工業プロセス制御の分野の標準化において日本の存在感を高めることに貢献。
6	さとう まさひろ 佐藤 政博	一般財団法人電気安全環境研究所 電気製品安全センター 技師長	家庭用電気機器の安全性分野等の適合性評価や標準開発において、長年にわたり国内外で活躍。特に、IEC/IECEE（電気機器・部品適合性試験認証制度）においては、相互査察員や試験所委員会のタスクフォース主査として、各国試験所における試験データの信頼性維持向上に指導力を発揮。また、JICA事業を通じてインドネシアやベトナムの認証機関・試験所に技術的指導を行い、アジアにおけるIECEE参加国の拡大にも貢献。

NO	氏名	所属	主な功績
7	しもかわ ひでお 下川 英男	一般社団法人電気 設備学会 参事	1974年以来、多数のJIS原案作成委員会の委員を務め、70件を超えるJIS化に参画。また、国際標準化活動においても、2010年よりTC64（電気設備および感電保護）の低圧電気設備PTのエキスパートを務めるとともに、11のIEC/TC国内委員会に委員として幅広く参画。さらに、JISの国際整合化及び国際整合JISの強制法規への導入に尽力し、原案作成に携わったJIS C60364（低圧電気設備）シリーズ（IEC60364シリーズに整合）のうち、28件のJISが電気事業法関連省令へ導入された。
8	すぎうら ひろあき 杉浦 博明	三菱電機株式会社 デザイン研究所 所長	IEC/TC100（オーディオ・ビデオ・マルチメディアシステム及び機器）/TA2（色彩測定及びカラーマネジメント）のTAM（テクニカルエリアマネージャ）を務め、当該エリアの国際標準化を牽引。特に、ディスプレイモニタ、プロジェクタ、デジタルカメラ、プリンタ等多くの製品に現在も採用されているsRGB（IEC61966-2-1標準色空間の規格：異なる環境・機器間での色再現性を確保）の策定では、日本からエキスパートとして参画して我が国のAV機器メーカーの意見反映に貢献。
9	たかはし よしお 高橋 義雄	一般社団法人日本 電気計測器工業会 技術・標準部 課 長	IEC/TC85（電磁気量計量器）、IEC/TC45（原子力計測）及びISO/TC184（オートメーションシステム及びインテグレーション）の国内審議団体事務局を務めるとともに、日本代表メンバーとして国際会議に参加し、日本提案の国際標準化に貢献。また、放射線計測器のJIS原案作成事務局として、東京電力福島第一原子力発電所の事故に対応し、食品中の放射能測定装置のJISを短期間で制定し、放射線測定器の取り扱いや校正の必要性を解説したガイドラインの取りまとめを行い、緊急の政策課題に対して迅速に業界内をまとめるなど顕著な貢献。



NO	氏名	所属	主な功績
10	たけもと ただし 竹本 正	国立大学法人大阪 大学 産学連携本 部 イノベーション 部 特任教授	日本工業標準調査会委員として、溶接分野の標準化推進に貢献。長年にわたり、はんだとはんだ付けに関わる材料及び試験方法規格の制定・改正に関わり、我が国の電気・電子製品や各種接合体の製造、品質向上に尽力。RoHS指令等の有害物質使用規制に対応する鉛フリーはんだ関連規格について、国内の意見を取りまとめた日本案の国際標準化を主導。また、大阪大学接合科学研究所の教授として、はんだ付・ろう付関連の研究と教育に携わり、鉛フリーはんだ付を含めた技術の普及・促進に尽力。
11	たざわ ひさし 田澤 壽	一般社団法人繊維 評価技術協議会 東京本部 技術顧 問	平成20年度よりISO/TC38（繊維）の国際幹事を務め、その間、日本から16件の新規提案に尽力。これら新規提案規格は、我が国繊維業界が強みとする高機能繊維（消臭繊維、吸湿発熱繊維など）に関する規格であり、優れた日本製品が差別化されるよう評価基準値を国際規格に取り入れるべく各国に働きかけた。同産業の国際競争力強化に資する規格作成に多大な貢献。
12	たなか みつる 田中 充	独立行政法人産業 技術総合研究所 フェロー	日本工業標準調査会計測計量技術専門委員会及び基本技術専門委員会の委員長として、124規格の制定・改正を審議し、工業標準化に尽力。また、ISO/TC229（ナノテクノロジー）及びISO/TC256（顔料、染料及び体質顔料）においてエキスパートを務め、国内意見の取りまとめや我が国の意見を反映した国際規格の制定に貢献。さらに、ISO/TC12（量及び単位）において、エキスパートと国内審議委員会委員長を務め、量及び単位に関する国際標準化及びJIS化に多大な貢献。

NO	氏名	所属	主な功績
13	はせがわ ひでしげ 長谷川 英重	公益社団法人日本 文書情報マネジメ ント協会 特別会 員 標準化委員会 シニアアドバイザー	ISO/TC171（文書管理アプリケーション） 日本代表として、PDF/Aをアーカイブ電子文 書の世界標準フォーマットとする標準化活動に尽 力。日本がセキュリティ部分を分担すること等で Adobe社からISOへの無償権利譲渡を引き 出し、ISO32000（ポータブルドキュメン トフォーマット:PDF 1.7）を実現するなど、 電子文書の標準化に大きく貢献。事務の電子化に 関する国際標準化団体であるWFMC（Workflow Management Coalition）のメンバーとして長年 にわたって国際的に活動するなど標準化に積極的に 関与。
14	ほしかわ やすゆき 星川 安之	公益財団法人共用 品推進機構 専務 理事 事務局長	「共遊玩具」の開発からアクセシブルデザイン（A D）の概念を生み出した草分けの一人。全てのA D規格の根幹となるISO/IECガイド71 （高齢者及び障害のある人々のニーズに対応した 規格作成配慮指針）の提案・規格化をはじめ、数々 のAD関係JIS及び国際規格作成に貢献。日本 の他国を圧倒する数のAD規格の開発、日本発の 国際規格の制定など、この分野を国際的にリード した功績は多大。ISO/TC173（福祉用具） における新しいSC7（AD）の設立にも関与。 また、日本工業標準調査会委員及び臨時委員を長 年歴任するなど、消費者及び高齢者・障害者分野 での標準化推進に多大な貢献。
15	ほぼ としゆき 保母 敏行	東京都立大学 名 誉教授	10年間にわたり、日本工業標準調査会委員とし て、環境分野のJIS制定や政策の検討に尽力。 また、JIS原案作成委員会の活動では、委員を 2年間、委員長を15年間務め、特にダイオキシ ンなどの排ガス中の規制項目の分析方法のJIS 策定に関与し、我が国の環境対策の向上に大きく 貢献。国際標準化活動においては、ISO/TC 146（大気の質）の国内審議委員会委員及び委 員長を合計15年間務め、我が国意見を国際標準 化に反映するなど多大な貢献。

NO	氏名	所属	主な功績
16	まつだ みちこ 松田 三知子	学校法人幾徳学園 神奈川工科大学 情報学部 情報工 学科 教授	ISO/TC184（オートメーションシステム及びインテグレーション）/SC5（アーキテクチャ、通信とフレームワーク）傘下WGのコーディネータとして、国際規格の策定等で多大な貢献。特に、生産ソフトウェアアプリケーションの共通開発環境に関する国際規格の策定については、各国のメンバーと良好な人間関係を築き、我が国の意見を反映した合意形成に成功。また、TC184関係の国内対策委員会委員、JIS原案作成委員会委員、日本工業標準調査会産業オートメーション技術専門委員会委員等を務め、規格の開発から普及まで指導するなど、同産業の発展に多大な貢献。
17	まつむら しゅういち 松村 秀一	富士通株式会社 法務・コンプライ アンス・知的財産 本部 知的財産・ス タンドアード戦略統 括部 シニアスタ ンダアードエキス パート	IEC/TC100（オーディオ・ビデオ・マルチメディアシステム及び機器）/TA8（マルチメディアホームサーバシステム）及び14（パーソナルコンピュータのインターフェースと測定方法）のTAM（テクニカルエリアマネージャ）を務め、多くの日本提案を含む国際標準化を牽引。TC100国内委員会幹事として国内意見集約、多くの規格開発、更に普及に貢献。また、人材養成を重要課題ととらえ「次世代人材育成プログラム」を提唱し、業界の標準化人材の発掘、養成に貢献。
18	むしゃ よしのり 武者 良憲	公益財団法人富徳 会 常務理事	ISO/TC106（歯科）で作成した国際規格の多くは日米欧において強制法規に引用等されているが、氏は本TCのSC7（オーラルケア用品）の国際幹事として17年間にわたり、当該分野の国際標準化に多大な貢献。また、市場規模の拡大が予想される歯科用のCAD/CAM分野について、我が国の提案で設立されたSC9（歯科用CAD/CAMシステム）の国際幹事を務め、国際標準化活動をリード。さらに、国際幹事としての経験を活かし、後進の育成にも尽力。

NO	氏名	所属	主な功績
19	むらやま ひろし 村山 廣	東芝リサーチ・コンサルティング株式会社 技術部フェロー	2008年からIEC/TC3/SC3D（電気・電子分野のメタデータ・ライブラリ）の国際議長としてIEC CDD（共通データ辞書）の構築を主導。また、関係するISO/TC184/SC4（産業データ）においても、20余年にわたり活動。産業オントロジーに関し6規格と2つのISO/IECガイドを主筆し、国際標準化を牽引。中でもデータモデル部（分冊）のプロジェクト・リーダーを務めたIEC 61360およびIEC 62656は、スマートグリッド及びインダストリー4.0の基盤データモデルに位置付けられ、国際的に高い評価。
20	もりみや やすし 森宮 康	学校法人明治大学 名誉教授	日本が豪州と共同で「リスクマネジメントー原則及び指針」を新規作業項目として提案した際、日本の国内対応委員会委員長として主導的役割を果たし、ISO 31000（リスクマネジメント）及びJIS Q 31000の発行に多大な貢献。また、認証機関の一つである、一般財団法人日本規格協会審査登録事業部に設置される公平性委員会の委員長を設立当初から務め、認証活動の公平性の監視など、審査登録活動における利害抵触を管理してマネジメントシステム審査登録活動の客観性確保に尽力。

[五十音順、敬称略]

## 組織

NO	組織名	主な功績
1	一般社団法人産業環境管理協会	環境測定や環境マネジメントシステム規格関連の分野において、国内外の標準化活動に大きく貢献。国内においては、産業界や行政ニーズを的確に反映したJIS改正に積極的に取り組み、原案作成委員長等を担う人材を輩出。国際標準化活動においては、ISO/TC146（大気（質））SC1～4、ISO/TC147（水質）、ISO/TC207（環境管理）SC3～7の国内審議団体として、国内意見のとりまとめ、我が国意見の積極的な規格への反映に尽力。また、JISとISOの整合化などにも貢献。
2	全国生コンクリート工業組合連合会	生コンクリートは、公共工事においてJIS適合品が求められる、JISマーク認証数に占めるコンクリート関連の割合は約34%（3000社）を占めるなど、国内に与える影響は大きい。こうした分野における標準化や適合性評価に関し、JISA5308（レディーミクストコンクリート）の改正原案作成、製造工程管理用試験方法の制定・改正に長年にわたり尽力。また、JIS改正時に全国で説明会を実施することで、各地の事業者の規格に対する理解を深め、社会資本の基盤を支える重要な資材の品質等の確保に多大な貢献。
3	ソニー株式会社	オーディオ、ビデオ、マルチメディアに関する国内外の標準化に尽力し、製品・サービスを通じて社会に貢献。特にIEC/TC100（AVマルチメディア）及びISO/IEC JTC1/SC29（AV情報符号化）を中心に、国際幹事等を多数輩出し技術審議のみならず委員会運営にも貢献。JTC1では、SC6（通信システム間の情報交換）を中心に非接触ICカード規格の普及推進で国民生活の利便性向上に貢献。また、IEC上層活動では、SMB委員、CB委員等を歴任するなど日本の国際標準化ポジション向上にも多大の貢献。

[五十音順]

平成26年度国際標準化貢献者表彰（産業技術環境局長表彰）受賞者

NO	氏名	所属	主な功績
1	あさみ やすお 浅海 靖男	UDトラック株式会社 グループ トラックテクノロジー アドバン ストテクノロジー アンドリサーチ	ISO/TC22（自動車）/SC5（エンジン テスト）/WG14（窒素酸化物低減添加剤）の エキスパート及び対応国内分科会長を長年にわたり 務め、ディーゼル機関の窒素酸化物還元剤関連 の国際標準策定に尽力。現在、氏が標準の作成に 携わった尿素水溶液は、ディーゼル自動車から排 出される窒素酸化物低減装置に国内外で広く使用 されており、我が国においては策定した標準が技 術指針に引用され、市販の尿素水溶液の品質維持 に活用されるなど、世界的なディーゼル自動車の 環境性能向上に多大な貢献。
2	いいだ みちひら 飯田 導平	株式会社デンソー 技術開発センター EMC技術室 担当課長	ISO/TC22（自動車）/SC3（電気装置） /WG13（環境条件）のエキスパート及び対応 国内分科会長を長年にわたり務め、自動車用電 気・電子部品の耐環境性試験方法や保護等級など の国際標準の策定に尽力。また、我が国が強みをも つ電動車両特有の電気・電子部品に関する耐環 境性試験方法について新規作業項目を提案し、国 際的な議論を主導。自動車用電気・電子部品の試 験効率の向上や高信頼性の確保に寄与するととも に、我が国の自動車産業発展の基盤強化に多大な 貢献。
3	いけのや ゆきこ 池ノ谷 由紀子	元 一般社団法人 情報処理学会 情 報規格調査会 規 格部門担当	ISO/IEC JTC1/SC29（音声、画 像、マルチメディア、ハイパーメディア情報符号 化）の国際幹事を務めSC29の運営に尽力した 功績。デジタルカメラ、デジタル放送、インター ネット配信等、情報通信・放送・コンテンツ業界 への貢献度がきわめて高いマルチメディア符号化 の標準化活動に貢献し多くの規格を成立させた。 また、国内において、JTC1の専門業務指針を 検討する小委員会に参画し、業務指針の改正検討 に貢献。

NO	氏 名	所 属	主 な 功 績
4	うえはら しんいち 上原 伸一	株式会社東芝 研究開発センター マルチメディアラボラトリー 主任 研究員	IEC/TC110（電子ディスプレイデバイス）の国際副幹事を務め、液晶ディスプレイやバックライト技術など産業上の重要分野や、3Dディスプレイ、インタラクティブ技術など今後の新市場創出が期待される分野の標準化を強力に推進。各国からの多様な意見を調整しつつ、日本意見を反映した標準化を戦略的に主導するなど、大きな貢献。また、ISO/TC159/SC4/WG2（視覚表示の条件）やWG12（映像の安全性）においても、映像技術の人間工学的な見地に基づく標準化に尽力するなど、当該分野の標準化活動に多大な貢献。
5	おくつ りょうじ 奥津 良之	アズビル株式会社 アドバンスオートメーションカンパニー 営業本部 営業技術部 シニアマネージャー／主管技師	IEC/TC65（工業用プロセス制御）／SC65B（計測及び制御機器）／WG9（調節弁）の国内対応委員会の幹事を務めるとともに、国際会議に専門家として参画し、国際標準化に貢献。また、同SCのJWG17（調節弁仕様群の電子辞書に関する作業グループ）においては国際幹事を務め、IEC61987（工業用プロセスの計測及び制御）のパート21、22、23等の国際規格の取りまとめに尽力。
6	おの ひであき 小野 英明	株式会社本田技術研究所 基礎技術 研究センター 第5研究室 第1ブロック 研究員	サービスロボットの安全性に関する国際規格ISO13482の策定にあたり、日本提案の牽引役となり、二足歩行型移動ロボットや装着型ロボットのメーカーの立場から、ISO/TC184（オートメーションシステム及びインテグレーション）／SC2（ロボット及びロボテックデバイス）の活動に積極的に関与。海外での豊富な経験を生かし、技術的側面からも精力的にロビー活動を展開。特に、安全性に関する各国の多様な意見を調整しつつ国内意見を規格に反映させるなど、規格開発に多大な貢献。

NO	氏名	所属	主な功績
7	しおの たけし 塩野 剛司	国立大学法人京都 工芸繊維大学 大 学院 工芸科学研 究科 物質工学部 門 准教授	ISO/TC33（耐火物）/WG23（熱膨張率）においてプロジェクトリーダーを務め、耐火物の物理的特性試験として我が国初となるISO制定（2014年4月）に尽力。また、同TC/WG22（かさ比重と気孔率測定）及びWG24（不定形耐火物の爆発試験）にエキスパートとして規格開発に参画し、国際標準化を主導。現在も同TC/WG14（弾性率）のエキスパートや耐火物協会国際規格適正化委員会委員、物理試験分科会の主査を務めるなど、国際標準化に多大な貢献。
8	しばいけ なりと 芝池 成人	学校法人片柳学園 東京工科大学 コ ンピュータサイエ ンス学部 教授	電機電子製品の環境効率改善度指標「ファクターX」の標準化ガイドラインの策定に尽力。また、ISO/TC207（環境管理）/SC3（環境ラベル）やSC5（ライフサイクルアセスメント）においては、エキスパートとして日本意見の反映に大きく貢献。さらに、IEC/TC111（電気・電子機器、システムの環境規格）国内委員会委員、IEC62403（環境配慮設計）のJIS原案作成委員会委員を歴任するなど、標準化活動に貢献。
9	せきの よしお 関野 芳雄	IDEC株式会社 国際標準化・知財 推進センター 安 全・標準化推進グ ループ	産業用ロボットの安全性に関する国際規格ISO10218シリーズの開発にあたり、ISO/TC184（オートメーションシステム及びインテグレーション）/SC2（ロボット及びロボテックデバイス）にデバイスメーカーの立場からエキスパートとして参画。サンプル模型やプレゼンテーションを駆使するなど具体性を持って他国委員の理解を得つつ、ロボット制御の安全要求に必要なデバイスである安全スイッチを要求事項として国際標準に盛り込むことに成功するなど、産業用ロボットの発展と国際競争力強化に多大な貢献。



NO	氏 名	所 属	主 な 功 績
10	ながの けんいち 長野 研一	新日鐵住金株式会 社 原料第二部 上席主幹	ISO/TC102（鉄鉱石及び還元鉄）及び同 TC/SC1（サンプリング）に日本代表、エキ スパート又はコンビーナとして参画。ISO30 87（鉄鉱石ローットの水分決定方法）改正の コンビーナとして、低品位の鉄鉱石の水分を正確に 測定する方法を提案し改正に成功するなど、商取 引の実態を規格に反映させた製鉄原料の規格策定 に尽力。また、日本鉄鋼連盟の原料標準専門委員 会委員長、原料規格三者委員会委員等として同 TC及びTC27（石炭・コークス）の国内対応を 主導するなど、多大な貢献。
11	ばば こうじ 馬場 厚次	一般財団法人日本 規格協会 出版・ 研修ユニット 出 版事業グループ 国際規格出版チー ム	ISO/TC69（統計的方法の適用）/SC6 （測定方法及び測定結果）及びSC8（新技術及 び製品開発のための統計的手法の応用）の両SC 国際幹事として、日本提案をはじめとする標準開 発の推進に積極的に貢献。特に、日本提案のタグ チメソッドの標準化に尽力。また、ISO/TC 145（図記号）及びISO/TC12（量及び 単位）の国内事務局を務め、日本提案を強力に推 進。さらに、JIS原案作成では、土木・建築、 一般機械及び基本技術分野に携わり、積極的に標 準開発に貢献。
12	ふじさわ かつじ 藤沢 勝二	いすゞ自動車株式 会社 車両審査実 験部 上級職	ISO/TC22（自動車）/SC9（操縦性・ 安全性）/WG6（大型車の操縦性）のエキス パート及び対応国内委員会委員を長年にわたり務 め、大型車の操縦安定性関連標準の策定に尽力。 連結車両が主流で広いテストコースを想定できる 欧米の考え方に対して、日本で主流である単車の 特性に関する規定や試験コースの制約を前提とす る考え方などを主張し標準化に反映。世界中の自 動車に適用できる国際標準化に貢献。

NO	氏名	所属	主な功績
13	ふじもと としゆき □本 俊幸	独立行政法人産業 技術総合研究所 計測標準研究部門 副研究部門長	ISO/TC229（ナノテクノロジー）においてWGコンビーナやコンビーナ補佐を務め、日本提案を含むTS（技術仕様書）やTR（技術報告書）の発行に貢献。これらの標準により、試験試料の特性が規定され、安全性試験の質向上を通じた適正かつ効率的なナノ材料の管理が行えるようになった。また、計測手法の国際標準化により、高品質な日本製品を国際的にアピールできる基盤を構築するなど、ナノテクノロジーの国際標準化に大きく貢献。
14	まつもと まさゆき 松本 雅行	東日本旅客鉄道株 式会社 鉄道事業 本部 電気ネット ワーク部 担当部 長 技術アドバイ ザー	IEC/TC9（鉄道用電気設備とシステム）TS 62773（列車制御無線の要求仕様決定手順）のプロジェクトリーダーを務め、鉄道分野の日本提案として初となるシステム標準の策定に尽力。また、同TCにおいて最も重要な標準の一つであるRAMS規格のうち、アベイラビリティに関する内容の改正について提案し、当該事項を検討するAHG9のラポータを務めるなど、個別の標準策定のみならず、IEC/TC9における日本の存在感・発言力の向上に多大なる貢献。
15	みずたに ひろし 水谷 広	学校法人日本大学 生物資源科学部 教授	ISO/TC207/SC3（環境ラベル）国内委員会委員長を務め、ISO14021（環境ラベル宣言—自己主張による環境主張（タイプII環境ラベル表示）—追補1）の規格作成においては、我が国の定義が国際標準に整合するよう、規格に反映。また、ISO14000シリーズの認証制度の普及に関し、一般社団法人産業環境管理協会のマネジメントシステム審査員登録センターの認定委員会委員長を務め、長年にわたり同分野の審査登録員制度の発展に貢献。
16	やまだ あつし 山田 淳	株式会社東芝 ソ フトウェア技術セ ンター プロセ ス・品質技術担当 主幹	社会インフラを支える情報システムなどに利用されるソフトウェア製品の品質特性に関する規格制定に長年にわたり尽力。ISO/IEC JTC1/SC7（システム及びソフトウェア技術）におけるシステム及びソフトウェア製品の品質要求及び評価に関する規格群（ISO/IEC25000シリーズ）の規格化活動でコエディターを務めるなど、多くの国際規格制定に貢献。ソフトウェア及びシステムに関するライフサイクルプロセス規格群（ISO/IEC12207、15288）の作成にも大きく貢献。

NO	氏 名	所 属	主 な 功 績
17	やまの よしあき 山野 芳昭	国立大学法人千葉 大学 教育学部 教授	I E C / T C 1 5 (固体電気絶縁材料) 及び T C 1 1 2 (電気絶縁材料とシステムの評価と認定) の国内対応委員会の委員・委員長を務めるととも に、国際会議においては日本代表として、我が国 提案のポリエチレンナフタレートを材料とする電 気用プラスチックフィルムの国際標準化に貢献。 また、J I S の原案作成委員会においても多数の 委員長を務め、電気用プラスチックフィルムに関 する標準の国内への普及にも貢献。

[五十音順、敬称略]

平成26年度国際標準化奨励者表彰（産業技術環境局長表彰）受賞者

NO	氏名	所属	主な功績
1	いしかわ たかあき 石川 孝明	学校法人早稲田大学 国際情報通信研究センター 招聘研究員	ISO/IEC JTC1/SC29（音声、画像、マルチメディア、ハイパーメディア情報符号化）のWG1（JPEG静止画像符号化）での活動に尽力。JPEG2000規格の追補策定に関与し、デジタルアーカイブの研究開発を通じて同規格の実用化と普及に貢献。JTC1/SC29専門委員会のエキスパートや小委員会の幹事を務め、新プロジェクトとして承認されたJPEG AR（拡張現実感）及びJPEG Systemsの審議において、日本国内の意見を集約しNWIP（新作業項目）提案の一部に反映させるなど積極的に貢献。今後の更なる活躍が期待される。
2	かわむら よしのり 川村 義憲	株式会社安川電機 ロボット事業部 バイオメディカル事業統括部 バイオメディカル推進部 課長代理	産業用ロボットシステムと人との協働運転に関する技術仕様書であるTS（技術仕様書）15066の策定にあたり、ISO/TC184（オートメーションシステム及びインテグレーション）/SC2（ロボット及びロボテックデバイス）の日本代表として積極的に関与。日本の生産ラインの考え方を維持しつつ安全性を確保した人とロボットの協働運転を可能とする生産システムの構築を可能とすべく、各国委員へ粘り強い働きかけを行い、産業用ロボットの安全性に関するTSの発行に大きく貢献。今後の更なる活躍が期待される。
3	こばやし よしゆき 小林 吉之	独立行政法人産業技術総合研究所 デジタルヒューマン工学研究センター 主任研究員	ISO/TC159（人間工学）/SC3（人体計測と生体力学）の国際幹事を2010年から務め、制定4件、見直し10件の規格審議をはじめ、円滑な会議運営に貢献。また、国内対策委員会にも参画し、国際会議への参加経験を生かして規格案検討に貢献するとともに、日本提案の2件について国内外で調整を行い、NWIP（新作業項目提案）採用からCD（委員会原案）への進展に貢献。若手でありながら自身の研究実績を生かし、国際幹事等の責任ある業務をこなしていることから、今後も人間工学分野での国内外での規格作成や後進の指導等での活躍が大いに期待される。

NO	氏 名	所 属	主 な 功 績
4	しみず しんや 志水 信哉	日本電信電話株式会社 NTTメディアインテリジェンス研究所 研究主任	J T C 1 / S C 2 9 / W G 1 1 ( M P E G ) 及び、M P E G と I T U - T の合同チームにおいて、立体映像など高臨場感映像の効率的な蓄積・配信を実現するための多視点映像符号化規格などに N W 1 ( 新作業項目 ) 提案段階から参画し、多くの提案を行うなど国際標準化推進に尽力。多視点映像符号化規格の適合性試験規格策定に関しプロジェクトエディタを務め、試験用のデータと規格の整合性を積極的に確認するなど多大な貢献。国内においても委員会エキスパートとして審議活動に尽力。今後の更なる活躍が期待される。
5	ちょうの けいいち 蝶野 慶一	日本電気株式会社 情報・メディアプロセッシング研究所 主任研究員	4 K / 8 K と いった 超高解像度映像を用いた次世代放送などを実現するために必要となる映像符号化規格 ( H E V C 規格 ) の開発において、アドホックグループ等の議長として端末メーカー・サービスオペレータらの異種意見を調整し、インターレースフォーマット対応等、規格の完成に尽力。また、規格の普及に向け、次世代放送 / 通信システムの研究開発に努め規格拡張に取り組むとともに、3 D テレビ放送に必要となるステレオ映像を用いた放送サービスに関する国際規格の改正においてプロジェクトエディタを務めた。今後の更なる活躍が期待される。
6	つねまつ ひろつぐ 常松 弘嗣	アズビル株式会社 アドバンスオートメーションカンパニー 開発2部8グループ 課長代理	I E C / T C 6 5 ( 工業用プロセス制御 ) / S C 6 5 B ( 計測及び制御機器 ) において、I E C 6 1 4 9 9 ( ファンクション・ブロック ) や I E C 6 1 1 3 1 - 3 ( プログラマブル・コントローラ / プログラム言語 ) について、専門家として長年関与し、国際標準化に尽力。また、ファンクション・ブロック技術に係るワークショップの開催や実証試験論文の発表など、普及にも貢献。今後の更なる活躍が期待される。

[五十音順、敬称略]

平成26年度工業標準化功労者表彰（産業技術環境局長表彰）受賞者

NO	氏名	所属	主な功績
1	さとう きょうこ 佐藤 恭子	一般財団法人日本規格協会 国際標準化ユニット 国際規格開発グループ マネジメント規格チーム マネジメント規格課長	ISO9001（品質マネジメントシステム）及びISO14001（環境マネジメントシステム）などの国内委員会及びJIS原案作成委員会の事務局を担うとともに、国際会議へ参画し、長年にわたり規格開発に貢献。また、ISOの消費者政策委員会、標準物質委員会、SR（社会的責任）、ISO/TC258（プロジェクトマネジメント）の国内委員会事務局を務めるなど、国際標準化に貢献。さらに、大学教育現場において講師としてマネジメントシステム分野の講義を行うなど、工業標準化の普及・啓発に尽力。
2	たちか ひでこ 田近 秀子	公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会 事業委員会標準化部門東日本支部標準化を考える会代表 同支部総務委員会委員	消費者分野のJIS原案作成委員会に委員として参加し、消費者に分かりやすく使いやすいJISの制定・改正に尽力するとともに、消費者に対する普及・啓発に貢献。特に、子ども服に付属する紐などの危険性についていち早く認識し、関係機関に対し子ども服の安全基準のJIS化を粘り強く要望した結果、JIS L4129（子ども用衣料の安全性—子ども用衣料に付属するひもの要求事項）案の検討につながるなど、消費者の安全確保に役立つ標準化に大きく貢献。

[五十音順、敬称略]